

西海ブロック水産業情報

NO. 74 (平成23年7月～9月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>記載事項無し</p>	<p>●筑前海 ・養殖カキは順調に生育中。 ●有明海 (増殖) ・有明海漁業振興技術開発事業においてクルマエビ、ガザミ放流を実施。10cmサイズクルマエビ1万尾8月上旬、C3サイズのガザミ14万尾を8月中旬に放流。 (ノリ養殖) ・カキ殻の培養は順調で、9月で6ヶ月が経過。8月から高水温や光線不足などが原因と思われる生理障害が少し増えてきた。採苗は10月14日となった。</p>	<p>●玄海 【試験研究】 ・4月から沿岸地先3カ所で、ウニ食害種防止柵と母藻投入による藻場回復試験を開始。8月に鉄網スラグを投入し、月に1回程度、潜水による観察と外敵駆除、ネットの点検を行っている。また、海中の鉄イオン濃度について分析中。 ・9月にオニオコゼ9千尾(全長50mm)を、10月にクエ120尾(全長350mm)を標識放流。 【種苗生産】 ・カサゴ:成長は低水温の影響で平年に比べやや遅れたが、5～8月に計24万尾生産し、中間育成用として10万尾(全長45mm)、放流用として14万尾(全長50～84mmサイズ)配布した。 ・ナマコ:アオナマコ37.2万個体(体長10～20mmサイズ)、アカナマコ38.5万個体(体長10～20mmサイズ)を生産し、7～9月に放流用として配布した。 ●有明 「研究の動向」【水産資源関係】 ・タイラギ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質)、貝毒分析(カキ) 【水産増養殖関係】 ・タイラギ干潟移植試験、放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査 ・養殖マガキの付着密度比較試験およびカゴ飼育比較試験 ・沖合域におけるモカイ殻 散布耕耘試験の追跡調査 ・サルボウの浮遊幼生等調査 【その他】 ・有明水産振興センターのホームページに漁海況情報として、大浦カキ採苗試験情報、タイラギ生息状況速報、海況関連情報を公開中。 「水産業の動向」【水産資源関係】 ・クルマエビ、ガザミは不漁であったが、クルマエビはお盆前後から、ガザミは9月から漁獲が増加している。タイラギ(平成22年級群)は大牟田沖～太良沖に広範囲に生息していたが、6月下旬から発生した斃死により生息数が減少し、漁獲につながるような密度での生息は太良沖の狭い範囲で確認しているのみ(斃死の原因は海域により違うと考えられる)。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・水温は、7～9月まで平年並みで変動した。 ・比重は、7月は平年よりやや低め、8、9月は平年並みで変動した。 【水産増養殖関係】 ・サルボウについては、漁期前の現存量(漁場全体の平均生息重量密度)としては昨年より多いものの、身入りが悪い状態が継続した。その理由として、昨年末から2月中旬にかけて水温が平年より1～3℃低めに推移したこと、3月以降の降水量が平年の4割程度と少なく、サルボウの餌となる植物プランクトンの量(クロロフィルa量)が少なかったこと等があげられる。 ・ボイル後の歩留まり(殻付き重量に対するボイル後の剥身重量の割合)が昨年の20～25%に対して15～17%と低いため、目の大きなジョレンを用いて漁獲されていたことなどから、今年度の漁獲量は昨年の1/2程度と推測している。なお、7月中旬以降、貧酸素と低塩分が原因と思われる斃死が小潮期を中心に断続的に確認されたことから、次年度の漁獲への影響も懸念される。</p>	<p>○良質な種苗の生産技術開発研究事業 【クエ】6月1日にホルモン処理による成熟促進で、採卵を実施し、現在種苗生産を実施中。 【クロマグロ】7月15日、28日に佐世保市黒島の養殖場(金子兼子産業)および奄美養魚(有)の親魚が産卵した受精卵計202万粒を用いて種苗生産試験をおこなった。8月22、23日、日齢25、36、37に合計5、267尾の稚魚を取上げた。 【カワハギ】5月下旬～6月上旬に自然産卵によって得られた受精卵を用いて種苗生産を開始し、8月上旬に合計10、000尾の稚魚を生産した。 ○有明海漁業振興技術開発事業 【タイラギ】 9月まで種苗生産試験を実施したが稚貝の生産には至らなかった。移植による干潟飼育試験と垂下飼育による肥育試験を実施中。 ○貝類の新養殖技術開発 マガキシングルルシードによる養殖試験を実施中。</p>	<p>6月末から県内で年末出荷用のクルマエビ養殖が開始された。現在までクルマエビウイルス(PAV)の発生は確認されていない。 県内の養殖シマアジにレンサ球菌症が多発している。シマアジには承認されたレンサ球菌ワクチンが無いため、投薬で対応しているが一部エリスロマイシン耐性株が認められ、業者は対応に苦慮している。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・スジアラ種苗生産:30mmサイズ約83千尾生産 ・サバヒー種苗生産:60トン水槽2面で生産中</p>	<p>○イワガキ種苗生産試験 8月22日に成熟度の高い母貝(雄2個雌3個)を使用し、卵8,035万個を採集。このうち1,800万個を媒精し、翌日に265万個の浮上幼生(D型)を得た。 このうち50万個ずつを500ℓ水槽2水槽にそれぞれ収容し試験を開始した。試験区2区のうち1区は22日齢で不調により中止し、残りの1区を24日齢で500ℓ2水槽に9万8千個ずつを分槽し試験を継続した。このとき浮遊貝は300μ mを越し、眼点の出現も多く、付着開始間近と判断されたことから、分槽翌日に水槽にホタテ原板を垂下した(480枚/500ℓ水槽2水槽)。 原板垂下後12日(36日齢)に付着数を計数し、2水槽で14,822個の稚ガキを確認した。</p>	<p>6～8月に発生した赤潮の発生状況は下記のとおりで、佐伯湾で7月下旬から9月中旬に発生した Karenia mikimotoi・Heterosigma akashiwoを含む複合赤潮により漁業被害があった。 Heterosigma akashiwo 4件(佐伯湾1、別府湾1、入津湾2) Mesodinium rubrum 5件(臼杵湾1、津久見湾2、佐伯湾1、米水津湾1) Karenia mikimotoi 1件(入津湾) Noctiluca scintillans 1件(津久見湾) Karenia mikimotoi・Heterosigma akashiwo複合 1件(佐伯湾 漁業被害有り)</p>	<p>記載事項なし</p>